

女性患者への放射線検査の説明の Tips

胎児への放射線の影響は女性の患者さんが放射線検査を受ける際に感じる不安要因の一つです。疑問を持たれている患者には、検査前に説明するようにしましょう。

1. 放射線検査を行う前に生殖年齢のある全ての女性に妊娠の可能性があるかどうか確認し、その結果を指示票に入力して下さい。

(ア) 胎児への線量が 50mGy を超える場合¹には妊娠テストを考慮しましょう。

① インフォームドコンセントの説明用紙は放射線部で作成しています。

(イ) 必要な検査は月経の最初の 10 日間以外の期間でも行うのが適切だと考えられます。

2. 放射線のリスクを説明しましょう。

(ア) 胎児への線量が 1mGy に満たない場合にはリスクは小さいことをお伝え下さい。

患者さんが心配される場合には放射線部が作成したパンフレットをお渡し下さい。

① このような検査の場合は…

(イ) 胎児への線量が 1mGy を超える場合には放射線部が作成した資料を必要に応じてお使い下さい。

① 形態異常（奇形）や精神発達遅延などの確定的影響は胎児への線量として 100mGy より少ない線量では、そのリスクが小さいと考えられます。

1. 胎児への線量が 100mGy に到達しうる検査の例：

② 発がんリスクは小児期と同等と考えられています。

1. リスクを高く見積もった場合 10mGy の曝露で 1/1,700 の小児がんの過剰死亡をもたらすと考えられています。

③ 受胎前の照射でリスクが高くなることは確認されていません。

3. 検査で受ける線量は画質も考慮した上で最小限になるようにコントロールしていますが、検査の回数や範囲が最小限になるようご配慮ください。

4. 国際放射線防護委員会は、「100mGy 以下の被ばくを妊娠中絶の理由にしてはならない。」と勧告しています。

表 健康な子供が生まれる確率

胎児の被ばく線量[mGy]	子供が奇形を持たない確率[%]	子供がガンにならない確率[%] (年齢0～19歳)
0	97	99.7
0.5	97	99.7
1	97	99.7
2.5	97	99.7
5	97	99.7
10	97	99.6
50	97	99.4
100	97 ^{*3}	99.1

*1：（社）日本アイソトープ協会発刊「妊娠と医療放射線」より引用

*2：確率の数字は丸められた値

*3：97に近い値

¹胎児への線量が 50mGy を超える検査